球磨支援通信

熊本県立球磨支援学校
令和４年(２０２２年)１１月　第２号

交流及び共同学習とは

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています。障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても障害のない子供にとっても、経験を深め社会性を養い、豊かな人間性を育むとともにお互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。

交流及び共同学習の目的

交流の目的　　→相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むこと
共同学習の目的→教科等のねらいの達成
この２つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要がある

交流及び共同学習の種類

①学校内交流
特別支援学級と通常学級間で行う

②学校間交流
支援学校と通常の小・中・高の学校と行う
（オンライン交流を含む）

③居住地校交流
支援学校の児童生徒が居住地にある小・中学校等と行う

④地域間交流
特別支援学校の所在地の団体や住民等と行う

⑤間接交流
作品・手紙の交換、学校紹介動画や地域情報の提供等

交流及び共同学習の実施におけるポイント

〈はじめに〉

関係者間の連携

・教師、児童生徒、保護者等の関係者が、交流及び共同学習の意義やねらい等について、十分に理解する機会を設ける。

年間指導計画の作成

・教育課程上に位置づけ、交流及び共同学習の形態や内容、回数や役割分担などを事前に十分検討し、継続的・計画的に取り組むことができるようにする。

〈交流の実際〉

事前に行うこと

・教職員間の共通理解（学習活動のねらい、めざす姿など）
・障害についての正しい理解、適切な支援や協力の仕方についての理解を促す事前学習
・障害のある児童生徒に対しては、自分の気持ちの表現の仕方、援助の求め方などに関する指導を含めた事前学習

※児童生徒が安心して交流及び共同学習を楽しむことができるよう、事前の打ち合わせや十分な計画が重要

活動当日

・児童生徒たちが主体的に活動に取り組むことができるようにする。
・両者のねらいに即し、柔軟かつ円滑な活動ができるよう、児童生徒の様子を把握し、適宜支援する。
・事故防止に努める。

事後学習

・児童生徒がどのように感じたか振り返ったり、絵や作文で表現したりすることで、両者の関心をより一層深め、次回の活動につなげていくようにする。

評価

・活動のねらいの達成状況、児童生徒の意識や行動の変容を評価する
※活動直後の状況だけでなく、その後の日常生活における児童生徒の変容をとらえることが重要

参考資料：交流及び共同学習ガイド（文部科学省）

小・中学校における特別な支援を必要とする児童生徒は、通常学級はもちろん、特別支援学級や通級指導教室など、多様な学びの場で学んでいます。互いのことを知る機会や共に学ぶ場面が日常的にあるからこそ、見えてくる課題もあるのではないでしょうか。今年度も折り返しを迎えました。ぜひ、交流及び共同学習の目的やねらいについて学校全体で共通理解を図ったり、計画を見直したりする機会を設けていただきたいと思います。

本校でも、近隣の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習に取り組んでおります。近年は、感染拡大防止の観点から、オンライン交流や間接交流が中心ですが、今年度の成果や課題を両校の職員間で共有し、児童生徒同士をさらにつないでいく継続的な取組がさらに必要だと感じています。令和6年に予定している移転によって、多良木中学校と隣接することとなります。今後とも、同じ方向を向いて一緒に取り組んでいきましょう。

多様性とインクルージョン～アニメを通して～

アニメ『セサミストリート』をご存知でしょうか。この番組が最も伝えたいテーマは、「多様性とインクルージョン」だそうです。そのため、様々なキャラクターが登場します。平成29年、新たに加わった仲間は、ジュリアという4歳の女の子。自閉症です。ジュリアが生まれた背景には、保護者からの要望で自閉症スペクトラム症の特性がある子供に対する社会の理解を深めたいという思いがあったのだそうです。

「世の中の子供たちが自閉症のことを少しでも知ってくれること、友達になれることを分かって欲しい」と脚本家は語っています。ちなみに、ジュリアのパペット操作と声を務めている方は、自閉症の子供を持つ保護者です。

第一話は、ビッグバードがジュリアにハイタッチを求めても、彼女が反応を示さないエピソードからスタートします。動揺するビッグバードに、エルモたちは、彼女は自閉症であること、ビッグバードを嫌っているのではなく、ジュリアにはジュリアなりのコミュニケーションのとり方があることを伝えます。さらに、短い言葉で話しかけ、答えを少し待ってみるようにと、具体的に関わり方のアドバイスをします。まさに重要なのはこの点で「障害の特性を捉えること」は、具体的なサポートにつながるのです。有効なサポート方法というのは障害がある当事者にとってだけでなく、彼らと関わりたいと思う周囲の人みんなにとって、世界を広げるチャンスになります。

『セサミストリート』は、すべての子供が家族や友人、コミュニティーとのつながりを持ち、十分なサポートを受けながら前向きに幸せに生きていくことを願っているそうです。私たちの実践にも生かすことができる視点ではないかと思い、ご紹介しました。

〈お問い合わせ先〉
熊本県立球磨支援学校
教頭：井村
特別支援教育コーディネーター：柴田
TEL：0966-42-3792
FAX：0966-42-6938
E-mail:kuma-s@pref.kumamoto.lg.jp
HP アドレス：http://sh.higo.ed.jp/kuma-s/

球磨支援学校の HP QR コード

質問や困ったことなどありましたら、電話、FAX でお気軽にお問い合わせください。